



厚生労働省北海道労働局発表
平成29年11月27日

担
当

厚生労働省北海道労働局
職業安定部職業安定課
課長 曾根 文儀
地方労働市場情報官 須貝 清張
電話(011)-709-2311
(内線3673)

北海道ブロックの雇用動向について

(平成29年7～9月四半期分)

厚生労働省では、平成29年7～9月四半期分の全国各ブロック別に雇用動向を公表しました。

北海道労働局としても、これに合わせ雇用動向におけるトピック等を含む雇用動向を公表します。

北海道ブロックの雇用動向

【平成29年7－9月期の雇用情勢判断】

「雇用情勢は、改善が進んでいる。」 （判断維持）

平成29年7－9月期							
	就業地別 有効求人倍率	受雇地別 有効求人倍率	新規求人数 増減率	新規求職者数 増減率	正社員 有効求人倍率	雇用保険 被保険者数 増減率	雇用保険 受給者実人員数 増減率
	【季調値】 (対前期差)	【季調値】 (対前期差)	【季調値】 (対前期比)	【季調値】 (対前期比)	【原数値】 (対前年同期差)	【原数値】 (対前年同期比)	【原数値】 (対前年同期比)
	(単位:倍、ポイント)	(単位:倍、ポイント)	(単位:%)	(単位:%)	(単位:倍、ポイント)	(単位:%)	(単位:%)
北海道 ブロック	1.16 (+0.03)	1.10 (+0.01)	3.6	-3.1	0.75 (+0.06)	2.8	-2.5

※ 雇用保険被保険者数については、一般、高年齢、特例被保険者の合計値。雇用保険受給者実人員については、一般被保険者の数値である。

雇用動向におけるトピック

- 2016年度に道内を訪れた外国人観光客は、約230万人で5年連続で過去最高を記録した。16年度は、前年度比10.6%増と近年30%以上の伸び率よりは鈍化した。新規就航が相次いだ韓国やマレーシアからの客が増えた一方で、中国や台湾からの客が微減となった。
- 道内の秋サケ定置網漁の序盤の漁獲量が、記録的不漁だった前年の同期と比べて半減している。資源の減少で道東の海域を中心に漁獲量が落ち込んだところに、台風18号で網が流される被害が重なり、漁業者にとって二重の打撃となっている。不漁の主因は資源量の減少とみられ、近年サケの稚魚が海に出る春先の海水温が低く、生き残るサケが少なくなっている。一方、道南、道東でのイカの不漁が続く中、稚内沖では、7月～8月の水揚げが4割増しで、道内外からイカ漁船が集結している。なお7月～8月イカ漁による経済効果は2億4,000万円近くなる。
- 昨年8月の連続台風被害で、被災地の復旧工事が続くが、作業員や資材の不足が大きな壁となり、8月末現在、道が発注する河川や道路の工事の約4割は未着手で完了はわずか1割となっている。十勝管内では、復旧工事の35%が、技能を持つ作業員やコンクリートブロック等の資材不足により入札不成立となっている。

<北海道地区企業倒産情報>

(株)東京商エリサーチ北海道支社によると、2017年度上半期における北海道内の企業倒産件数は、133件で、前年度上半期より、4件減となり5年連続で減少、1971年に同一基準で倒産集計を開始した以降、過去最少の件数を更新した、負債総額は221億100万円で、前年度上半期より36億1,000万円増加したが、平成に入ってから3番目に少ない額となった。道内の企業倒産は落ち着いた状態が続いている。

企業の生の声

1. 事業所ヒアリングにより得られた、雇用の質の改善に向けた企業の取組状況

- 医療業(300人未満)
資格が必要な看護や介護等を細分化し、助手で対応可能な仕事は看護・介護助手等に対応させることで看護師・介護士等のふたんを軽減して定着率の向上を図るとともに、仕事の省力化分を担当患者数等の拡大にあてて必要人員数を縮減し、人手不足に対応している。
- 介護事業(300人以下)
60歳以下の有期雇用職員の無期雇用転換を図り、合わせて定年制60歳、再雇用65歳までの年齢を65歳・70歳に引き上げ、段階的に処遇の改善に取り組んでいる。
- 運輸業(300人未満)
人手不足及びコスト削減の対応として、中継基地経由の集配方法を一部変更。将来的には、車両の大型・連結化、他社との共同輸送、JR輸送への転換を模索。
- 旅客運送業(300人以上)
来年4月の無期転換ルールに対応するため、労使協議を踏まえ、賃金の見直しを含む処遇の見直しを検討している。
- 菓子製造業(300人未満)
正社員の採用を増やしてパート従業員の比率を減らしている。正社員が増えることにより総労働時間数が増え、人手の足りない店舗への異動も可能となり、パートのシフトに余裕ができ休みも取得しやすくなっている。また、社長と定期的に面談する機会を新たに設け、不満の解消などを図る取組を行った結果、正社員、パート職員の退職者が減少し定着につながった。
- 飼料・有機質肥料製造業(300人未満)
将来的に工場の各部署に女性を配置したい考えがあり、社内環境整備として休憩室は男女別、男性浴室、女性シャワールーム及び食堂を設置し環境整備を行った。
また、騒音、臭気、粉塵などをなるべく抑える工夫をしながら、求人については、正社員以外(契約社員)から正社員に転換して行く計画としている。

2. その他

- 道内でバス運転手不足が深刻化し、住民の足となる路線バスでは、一部地域で減便につながるなど生活への影響も出ている。運転手の高齢化が進む一方、若手の応募が少なく、定年退職で生じた欠員を補充できない現状にあり、各社は人材確保に苦慮している。
道は、バス会社で作る「乗り合いバス活性化戦略会議」を設置した。
また、(一社)北海道バス協会は初の取組で、12月に「バス運転手合同採用説明会」を開催する。(局後援)
- 障害者が働きながら技術や知識を身に付ける就労事業所で、今年4月に省令改正で国からの給付金から障害者への賃金を支払うことを禁止したことにより、経営悪化を理由に就労継続支援施設A型事業所を廃業し、B型事業所への移行や解雇を行う事案が発生している。

担当窓口の声

【高齢者担当窓口の声】

<どのような求職者が就職に結びつきやすいと感じているか>

- ・ 雇用条件に自ら希望する条件を緩和、合わせられる求職者。
- ・ 前職を引きずらず、態度、言葉遣い等から新しい職場で頑張ることを伝えられる求職者。
- ・ 相談窓口で「そんなことわかっている。」というような態度の方は就職しづらく、窓口スタッフに素直に相談できる求職者。
- ・ 健康的で明るい印象を与える求職者。
- ・ 人柄がよく、若い労働者ともコミュニケーション能力の高い求職者。

<求職者が重視している要素はどのようなものがあるか>

- ・ 土日の完全週休二日制を重視している。加えて残業や早出を敬遠する傾向がある。
- ・ 賃金額や雇用形態を重視する求職者は、一般求職者に比較すると少ないと思われる。一方、就業場所(自宅からできるだけ近い就業地を希望)や休日を重視する傾向は、一般求職者に比較し高いと思われる。
- ・ 女性は、夫・孫の世話や親の介護をしている場合も多く、就業時間・休日を重視する傾向にある。
- ・ 体力的に厳しくない軽作業を希望する。一方、自らの経験(技術・技能)を若い労働者に伝えたいという希望を持つ方もいる。
- ・ 咄嗟の判断を必要とする仕事は避ける傾向にある。
- ・ 年金の受給額と労働による収入額で生活できる仕事であること。

<最近の求職者の特徴的な動きはないか>

- ・ 自動車免許を返納した求職者も多く、必要な免許や通勤範囲などで制約を受けるケースが見受けられる。
- ・ 70代後半、80代の求職者も増加しており、相談時間が長くなる傾向にあり、紹介先には苦勞している。

<その他、北海道として特徴的なことはないか>

- ・ 夏期間と冬期間で通勤に要する時間が変わること。
- ・ 北海道は、農業・漁業従事者(自営)であった者で、後継者難等で離農等した高年齢者は収入は国民年金のみのため、就業を希望する求職者が増加している。
- ・ 本州で長く勤務していた方が定年を機に親のいる北海道に戻るケースがみられる。